

新刊ニュース

パリのスコラ・カントールムから出版されている *Orgue et Liturgie* というシリーズがあります。カトリックのミサの典礼のなかで奏楽されることを探求して集めている美しいシリーズです。すでに何巻か所蔵しておりましたが少しずつ穴埋めをしていきたいと思い、このたび何冊か購入しました。フランス音楽中心にみえますがそれだけではありません。

1 巻 : Paques

聖なる過ぎ越しの3日間に使えるオルガン曲が集められています。パッヘルベル、シャイト、フィッシャー、ダンドリュウ、また現代フランスのラングレも所収しています。

4 巻 : Noël

言うまでもなく降誕の曲が集められています。古いグレゴリオ聖歌のイムヌス *A solis ortus cardine* に基づくシャイトの作品や *Gelobet seist du, Jesu Christ* に基づく4人のドイツの作品、リテーズのノエル・バスクというユニークな作品など。

8 巻 : Hymnes et Antiennes

Salve Regina, *Jam lucis orto sidere*, *Pange lingua* などのグレゴリオ聖歌に基づく作品集で、作曲家はシュリック、タリス、コルネ、ロペスという具合にドイツ人、イギリス人、フランス人、スペイン人と多様です。定旋律は一樣に古い聖歌ですが、それを扱うテクスチュアに国民性といえますか、個性が出ます。

11 巻 : Notre Dame

ノートル・ダムとは聖母マリアのことです。 *Salve Regina*, *Ave maris stella* のような聖母賛歌に基づく、あるいは聖母ミサに基づくミサ曲などです。注目すべきはファルチネッリの *Rosa mystica* というグレゴリオ聖歌の7つのテーマに基づく曲で、 *Alma redemptoris*, *Ave Regina caelorum*, *Regina caeli* という大アンティフォナのテーマががめまぐるしく入れ替わり、そのあとすぐに *Stabat mater* (悲しみの聖母) になり、 *Salve Regina* になり、聖母のイメージがぎっしり詰め込まれています。

18 巻 : Au Saint-Sacrement

聖体の曲を集めています。聖体拝領のときに弾けるでしょう。すべて現代曲です。

(紙面の都合で今回はここまで。次に続きます)